

水戸でも安保法案反対集会に1000人 「政府は国民の声を聞け」

安全保障関連法案に反対する集会やデモ行進が東京・水戸町の国会周辺をはじめ全国で大規模に行われた三十日、水戸市でも全国の動きに呼応する抗議集会があり、約千人が参加して廃案を求めた。県内六つの市民団体でつくる「『戦争法制』に反対する真実行委員

会」が主催した。水戸駅前が始まった集会では、主催団体のメンバーや野党の関係者らが次々にスピーチした。元東海村長の村上達也氏は「国民の声が非常に盛り上がり、個人が自分の考えで参加している。今までの日本にない形だ」と、安保法案に反対す

る運動が勢いを増していることを強調した。民主党の藤田幸久参院議員も、県の戦没者追悼式で遺族代表が「憲法を都合よく解釈するのは姑息だ」と発言したことなどを例に挙げ、「県内で今まで声を上げなかった方々がどんどん声を上げている。民意は圧

倒的多数で『戦争法案』反対だ」と訴えた。参加者は駅前の集会を終えると、「政府は国民の声を聞け」「海外で戦争をする自衛隊にするな」などと主張しながら、市中心部をデモ行進した。(妹尾聡太)



安全保障関連法案の廃案を訴えてデモ行進する参加者たち＝水戸市で